

基礎・教養科目

本学は栄養学部の単科大学として、食べ物と人間とその関係、及びそれらの社会との関わりを科学的に探究し、実践に結びつけることで、全ての人々の健康と幸せの実現を図るための人材の育成を目指しています。そのために、基礎・教養科目では、栄養学を学ぶ資質・能力の基礎を養う「基礎科目」と幅広い視野と実践力を身につける「教養科目」を配置し、科目によっては両者が重なり合うように展開されています。

4年間を通して栄養学に関する専門の科目を学びますが、それらを生かすためには、人間の営みや多様性を幅広く柔軟に理解する視野と教養が必要です。こうした力を養う学問は「リベラルアーツ」と呼ばれ、人文科学・社会科学・自然科学・外国語の各分野を総合的に学ぶことを通して、人間が他者とともに生きていくことについての知識と思考を深めます。

人文科学分野

人文科学分野の科目では、これまで人間が創造してきた文化、芸術、思想を幅広く学ぶ学問が開設されています。人間の経験や心の世界に焦点を当て、個人と社会の行動や関係性を探究し、私たちを取り巻く世界に対する理解を深めます。こうした人文科学分野の学びはよりよい生き方を考察することにつながります。

社会科学分野

社会科学分野の科目では、人々の生活と経済・社会・教育・政策・ジェンダー等の関係を総体的に見て自ら考え、暮らしや地域の創造について考察します。日本国憲法では日本の歴史をふまえて民主主義や基本的人権を学び、世界に向けた役割を考えます。教職免許を取得する人には必修の科目です。

自然科学分野

自然科学分野の科目では、自然がもつ法則とそれを応用した技術、そして人間との関係性を理解するための基礎知識を身につけられるように、自然科学入門、数学、物理学、化学、生物学、環境生態学で構成されます。物質、生物、自然、生命、環境、エネルギー、宇宙など、多岐にわたる広範な現象を統一的に理解する知識を身につけることができます。

外国語

言語に関する科目では、英語、ドイツ語、フランス語、中国語があり、言葉を通して世界の文化や人々の営みを学び過去から現在に至る様々な人々とつながる力を身につけます。これらは人文・社会科学分野とも深くつながっている学びです。

これらの教養科目を履修することは、「栄養学士に関係ないのでは」、「すぐに役立つ科目ではないのでは」、「出来れば必要最低単位にとどめたい」と思う人もいるかもしれません。しかし、そう考えるのは早計です。本学が考える基礎・教養科目（リベラルアーツ）の学びでは、学士（栄養学）にふさわしい、人や暮らし、社会、地球の未来に責任をもつ力をじっくりと掘り下げながら養います。

これらの科目を履修した後は、自分たちが知らなかった、予想し得なかった多様な見方へと視野をひらき、自己の潜在力、可能性を高めることができるようになります。さらには、日々状況が変化する将来において、学びの種を自ら育て、自己を耕すための科目群であることを理解することになるでしょう。